

3年生

自主テーマ実験Ⅱ ポスター発表会 盛大に開催

学生自ら計画して取り組む自主テーマ実験は、応用バイオ科学科の一大イベントです。応用バイオ科学科の伝統は3年生に引き継がれ、放課後だけでなく休日まで実験をがんばっていました。中でも、母性愛やうつ病などの関連が知られることから、「同性愛に影響を及ぼすセロトニン受容体の遺伝子型」を調べた秋庭恭平さん、丹治雄也さん、加藤憲一さん、平野恭兵さん、高井恵莉加さんのグループと、「乳糖の分解は、遺伝子か？腸内細菌か？」と題して、乳糖を分解する酵素の発現調節機能と配列の関係を遺伝子レベルで調べ、牛乳を飲めなくなる体質に迫った上原なつみさん、長島惇揮さん、合田瑞紀さん、松田恭平さん、堀田秀弥さんのグループが最優秀賞を分けあいました。賞の有無に関わらず、自分たちの可能性を主張すること、仲間と協力すること、努力を怠らないことなど、自主テーマ実験で得た体験を忘れず、就職活動、卒業研究などに励んでほしいと思います。



「同性愛に影響を及ぼすセロトニン受容体の遺伝子型」の研究グループ



「乳糖の分解は遺伝子か？腸内細菌か？」の研究グループ

最優秀賞を受賞した2グループ

話し手も聞き手も真剣そのもの

「バイオコンテスト」 2年生 バイオを楽しく学べる教材を作ろう!

2年生の学生実験の中で、小中学生でもバイオを楽しく学ぶことができる教材作りに取り組みました。1グループ6～8名で、どのような教材を作ればよいかを真剣に議論し、グループ内で協力して紙芝居、カードゲーム、すごろくなどの作品を完成させました。発表会は2年生全員の前行い、最後に優れた教材を投票で決めたところ、ビニールプールに元素を浮かべ釣り上げる「元素釣りゲーム」を考案した石田博己さん、坂田星成さん、藤谷麗人さん、佐藤洋輔さん、志澤麻祐さん、渡邊舞弓さん、佐々木温実さん、村上真菜さんのグループが最優秀賞を受賞しました。



あれれ、先生もまじで熱くなってます(笑)

最優秀賞「元素釣りゲーム」のグループ



「化学・生物学基礎 1年生 ユニットプログラム」発表会

1年生による「化学・生物学基礎ユニットプログラム」の発表会が7月に開催されました。この発表会は、1年生前期に行った実験の内容をパワーポイントというソフトを用いて、一人ずつスライドにまとめ、プレゼンテーションを行うものです。大学に入って初めての発表会であり、また、発表形式が学会発表に準じたものであることから、多くの学生が緊張した様子でしたが、まじめかつ堂々とした発表態度は素晴らしいものでした。なお、プレゼンテーション用のスライドは「情報リテラシー」という授業の中で作成指導が行われており、個々の授業の枠を超えた授業連携により、学習効果をより高める工夫を応用バイオ科学科では行っています。



先生の目も真剣!



緊張しつつも堂々とした発表に拍手



マーク先生来日 夏休み「バイオ特別実験」

サウスシアトルコミュニティカレッジからマーク先生を招き、今年もバイオ特別実験が開催されました。夏休み中にもかかわらず、20名を超える学生が参加し、3日間で4種類の実験を行いました。今年は、マーク先生のアシスタントに、ウガンダ人留学生のヒラリーさんと、海外6ヶ月研修経験者の4年生の白石有希さんが入り、作業に対する質問や対応も全て英語でやりとりすることができました。いつも以上の緊張感を持って必死にノートをとって受講しており、学生のテキストをのぞいてみると、予習や復習の書き込みで真っ黒になっていました。マーク先生の分かりやすい発音と板書を多用した丁寧な説明に、皆大変満足で、充実した英語漬けのひとときを過ごすことができました。



イングリッシュオンリーにもやっとなって慣れて笑顔が、

インターンシップへの取り組み

インターンシップとは、学生が企業や官公庁などにおいて、一定期間研修生として働き、就業体験する制度です。大学ではインターンシップに向けた講義を開講し、多くの学生がその講義を受講してインターンシップに備えています。インターンシップの先陣を切って3年生の長谷場隼人さんが、9月前半の12日間、埼玉県企業局大久保浄水場で研修を受け、研修成果については10月の報告会で発表される予定です。今回研修に参加できなかった人は、参加学生の経験談を聞いて参考にしてほしいと思います。末筆になりますが、学生を受け入れ、ご指導いただいた関係者の皆様にも、この場を借りて厚く御礼申し上げます。